

2025年度 英語スピーキングテスト ESAT-J 実施状況調査まとめ【ダイジェスト】

【調査期間】2025年11月23日～2026年1月10日【調査対象】都内公立中学校教職員 【回答数：120人】

- ・進路指導担当 34人(28%) ・英語科教員 78人(65%) ・教務担当 18人(15%)
- ・3学年担当(副担当含む) 62人(52%) ・その他 12人

この結果をもとに、都教組は市民団体との共同で都教委・地教委への改善要請を行います。

ご協力ありがとうございました。

2026年2月 支部配布用討議資料 東京都教職員組合

子どもにも教職員にも過度な負担をかける英語スピーキングテストは今すぐ中止を

昨年度と同様、都教組は、東京教育連絡会と共同で、11月23日に全都で実施された英語スピーキングテスト(以下、ESAT-J)の実態を調査し、生徒・教職員の意見を集めました。都内約600校の内120校から回答が寄せられ、ESAT-J実施にともなう業務や当日の試験の様子が明らかになりました。中学校教員にとって、この時期の進路指導や入試業務は、多くの時間と労力を必要とする重大な業務です。この事業は教職員の働き方改革に逆行し、長時間過密労働を一層深刻にしています。さらに今年は、委託業者の変更が原因と考えられるトラブルも続出。中学校1年・2年生にも拡大しているESAT-Jは、子どもにとっても教職員にとっても過度の負担につながる事が予想されます。都教組は、保護者を含む各地域の市民団体と共に、都や各自治体へ改善を要求しています。ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

英語スピーキングテスト実施状況調査 結果の概要

1. 今年度のアンケートで多かった声

① 申込・登録作業の負担が大きすぎる

- 未登録家庭への繰り返しの連絡
- 不登校・外国籍家庭への個別対応
- 写真不備の確認と再提出依頼
- 追試申請の短い締切への対応
- 専用サイトの不具合や窓口の混乱

→「学校が介在しない仕組みにしてほしい」という声が圧倒的でした。

② 当日のトラブルが深刻化 今年度は特に、生徒に直接的な不利益が生じたケースが多く報告

- 試験官の指示ミスで複数名が追試験
- 説明動画を見終わる前に開始
- 難聴生徒に誤ったスクリプトが配布され、全員追試験
- 隣の声が録音に入る音漏れ
- 他校生徒の騒音
- 会場環境の不備(寒さ・長時間待機など)

→「公平な試験とは言えない」という声が多数寄せられました。

③ 英語科への負担集中と、通常業務への影響

- 対策授業に多くの時間を割かざるを得ない
- 申込確認・追試対応が長期化
- 進路指導と時期が重なり限界
- 英語科だけが突出して負担を背負っている

→ 働き方改革に逆行しているという指摘が多く見られました。

2. 生徒が受けた不利益(今年度の特徴)

今年度のデータでは、例年以上に 生徒の負担・不利益が具体的に報告 されています。

- 「自分は悪くないのに再試験になった」
- 「隣の声が録音に入った」
- 「ノイズキャンセラーがうるさくて聞こえない」
- 「寒い中で長時間待たされた」
- 「スポーツ大会と重なり受験できなかった」
- 「不登校なのに登録だけ求められた」

→ 生徒の努力とは無関係な要因で不利益が生じていることが明確になりました。

3. アンケート全体を通して浮かび上がったこと

① ESAT-Jを入試に組み込むべきではない

公平性・信頼性・妥当性のいずれも担保されていない。

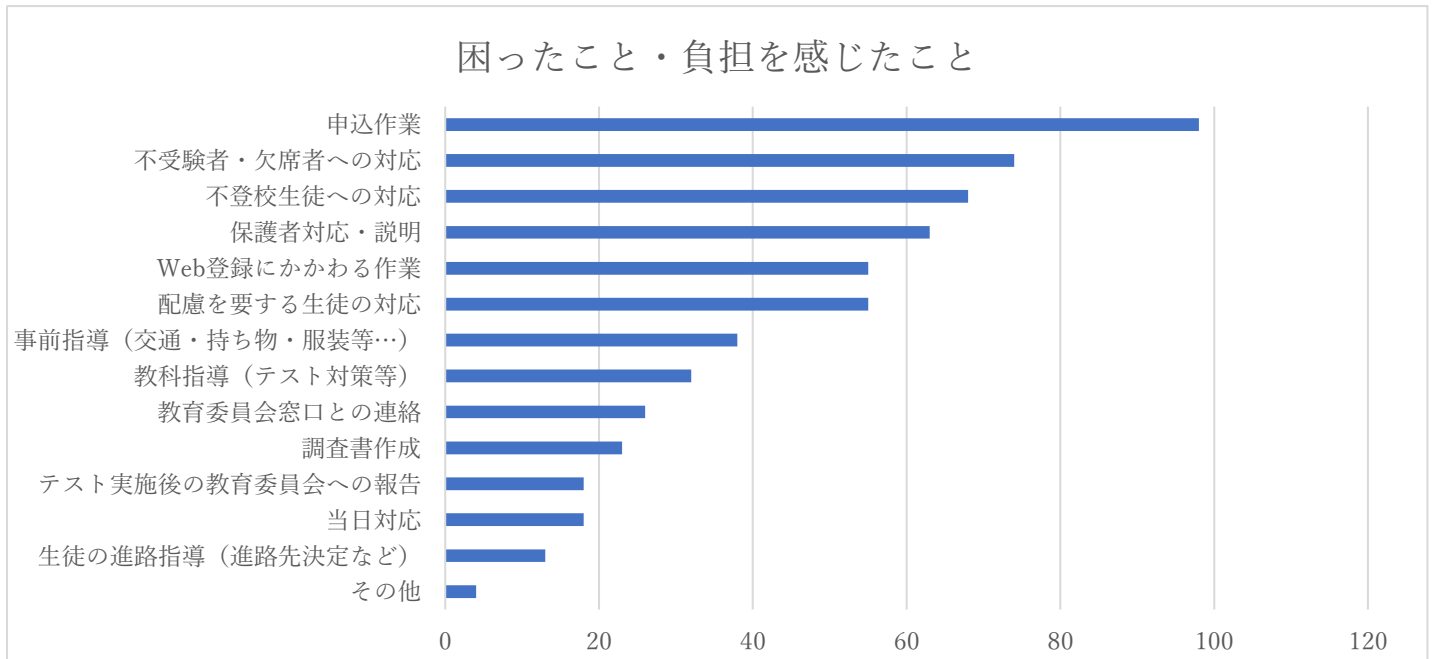
② 学校が介在しない仕組みにすべき

申込・写真登録・追試申請・結果通知など、学校が担う理由がない。

③ 生徒を守れない試験は継続すべきでない

試験官の質、音漏れ対策、配慮生徒対応、会場環境など、運営の問題点は多岐にわたる。

スピーキングテストの業務で、困ったこと・負担を感じたことはどんなことですか。（複数回答可）120 回答



スピーキングテスト当日や後日に、生徒や保護者からトラブルや困ったことなどの報告がありましたか 104 回答

生徒・保護者からのトラブル報告 — 要約

1. 最も多かったトラブル（複数校で共通）

① 音漏れ・周囲の音が聞こえる

→ 公平性を損なう最頻出のトラブル

② 試験官・会場スタッフのミス

→ 生徒が悪くないのに再試験になる深刻なケースが多い

③ 配慮生徒への誤対応（重大）

→ 最も守られるべき生徒が不利益を受けている

④ 機器トラブル

→ 録音形式の試験で機器不良は致命的

⑤ 会場環境の問題

→ 生徒の身体的・精神的負担が大きい

⑥ 日程の問題

→ 進路に関わる不利益が発生

⑦ 不登校生徒の困難

→ 制度が弱い立場の生徒に負担を強いている

一言でまとめると

「トラブルは例外ではなく、制度と運営の欠陥によって必然的に発生している」ということが、回答全体から読み取れます。

ESAT-Jテスト結果の入試活用中止、来年度以降全学年の実施中止を

全てのアンケート結果は、東京教育連絡会を含めた市民団体と共有し、各方面からの都教委・地教委要請に活用します。

高校入試へのテスト結果の活用中止、子ども・教職員に過度の負担を負わせるテストの来年度以降の実施中止などを求めるとともに、地域・職場で公正・公平な入試制度の在り方と、どの子にもゆきとどいた教育をすすめるための教育条件整備などに関する議論を深め、今後も中止の声を上げていきましょう。



■お問い合わせ■東京都教職員組合（都教組）

都教委要請文書や詳しいアンケート結果はこちらの組合員専用サイトで閲覧できます。

ともに声をあげよう！

あなたもぜひ都教組へ

組合加入・労働相談はこちら

☎03-3230-3891

